

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

ベトレヘムの風

発行：ベトレヘムの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.com>



No. 76

ハワイのおばさんの“デラックス”

院長 青木 信彦



7月になりました。待ちに待った夏休みも、もう目の前です。

一度は、家族連れでハワイ旅行なんていうのもいいですね。

パパ・ママはお金がないので、おじいちゃん＆おばあちゃんと一緒ということになります。こう

いった旅行では、三世代の御一行様が多いのです。

役割は

- もちろん、お金を出すのはおじいちゃん＆おばあちゃん
- 計画するのはパパとママ
- 楽しむのは子供たち

我が家の次女はもう10数年ハワイ在住で、帰国するのは数年に一度くらいです。その発想や行動は、かなりユニーク（変）です。（人畜無害なのですが、奇行が多く困ったものですが）

子供の頃から、ひばりが丘の自由学園で寮生活と教育を受けたことも影響しているのでしょうか。この学校で鍛えられ、たくましくなって卒業以来ずっとハワイなのです。



*自由学園の創立者は「婦人の友」でおなじみの羽仁もと子先生で、キリスト教を柱としています。学校名にそぐわない規則が有名で、近所では“不自由学園”と呼ばれています。しかし、卒業するとみな、自由学園でよかったと感謝するのです（本当に大切なことは後で分るものなのですね）。

もともと次女の性格も日本の風土に向かないようです。しかし、ハワイでの生活も楽ではないと言っています。

ハワイは観光がメインで、産業はパイナップルとコーヒー（コナが有名ですね）くらいです。

観光地なので物価が高く（食料品のほとんどが輸入品）、さらにアパート代も日本の都心並みなのです。

仕事は、農作物、とくにコーヒーの木につく害虫の研究です。農作物の調査では、うっそうとした田舎の密林に分け入って、泥まみれになります。ワイキキ海岸ばかりではないのですね。

そんなハワイの田舎では、気さくなおばさんたちに御世話になります。初対面ですので、緊張します。

すると、おばさんたちは、「もっとデラックスですよ、デラックス！」と声をかけてくれます。一瞬、なんのこともかと戸惑い、気を取り直して意味が分ると思わず、笑ってしまう。そうか、「デラックス⇒超リラックス」なのです。

ハワイの農村のおばさんは身体も大きいのですが、心のスケールはもっと大きい。言葉なんて、その意味よりも雰囲気大切なのですね。人とひとの関係は理屈ではなく、「心への響き ・ 温もり ・ 一緒にいるとホットする」、なんていう、言葉では表せない感性がもっと大切なのです。

次女からこの話を聞いて、早速、私も面接の時にこのデラックスを試してみました。

はじめに、「もっと“デラックス”しましょう」というと、面接を受ける方は何のことやら、きょんとしています。

そして、「デラックス ⇒ 超リラックス」と分った瞬間、ニヤツと笑って⇒リラックス。成功です。いかがでしょう、みなさんも“デラックス”を使ってみませんか。

私たちは様々な場面でストレスや緊張する毎日を送っています。

もっと肩の力を抜いてみましょう。そのためには、ちょっとした工夫もよいですね。

さあ、みなさんもハワイのおばさんに習って「デラックス！ もっとデラックスですよ」。



ベタニアの家創立記念日に 10年勤続表彰を受ける



先日、ベタニアの家創立記念のごミサに参加させて頂きました。その後、永年勤続のお祝いまでして頂いて、本当に心温まるひと時を過ごさせて頂きました。私は勤続10年ですが、20年の人が3人、30年の人が3人もいました。平坦ではなく、色々な困難を乗り越えての今がある…との話を聞きました。どんな困難をも乗り越えてこられたのは、いまだフロジャク神父様の意志が褪せることなく鮮明に息づいているからだと思います…。

御年23歳で来日し、昭和4年43歳で野方町丸山に、帰るところのない結核患者のために1件の民家を借り、結核患者5人と生活を共にするところからベタニアの家は、始まっています。神父様は、

働き続けてこられた年月の重みをしみじみと感じています。皆様は心より感謝致します。しかし、今は深く反省しなければなりません。心が疲労してしぼんでしまい、共感したり、相手の長所に気付くことが少なくなっているからです。

幾年前に長野県で北米出身の神父様にお会いした時「あなたのされている介護の仕事はとても大切な仕事ですね。」と話されました。最近の私はこのシンプルで奥深い意味ある言葉を思いつけませんでした。今まで仕事を続けてこられたのは、決して

この度勤続10年というお恵みをいただきました。色々な方々の助けがあってこそと感謝しています。

さて病院の10年を振り返ってみますと

- ・看護部は教育プログラムを整え、充実させ見違えるほどレベルアップしました。
- ・医療機能評価レベル3をパスし、病院全体の質もあがりました。

今回は10年勤続表彰ありがとうございました。創立記念ミサ・表彰式に参加し、30年・20年と勤続され表彰を受ける方々がいらっしゃることに、社会福祉法人慈生会を支えてこられた先人がたくさんいらしたということであらためて実感した思いでした。

私は慈生会病院とベトレヘムの園病院での勤続期間を合わせ、今回10年表彰をいただきました。しかし、ベトレヘムの園病院

ひどい喘息だったとのことです。本当は、それだけでも自殺行為のようなものだ…と、現代の私は、思っています。今の自分自身が、ちゃんと神父様の遺志を引き継ぎ、弱い人々のため何ができるのか、これから、何をしようかと、振り返ることができる節目となりました。

10年振り返ると、本当にあっという間です。体感では、1、2年のようです。しかし、やはり10年!ここまでこられたのは、陰になり日向になり、私を支えてくれている、共に働く皆さんのお陰様です。いつも、本当にありがとうございます!!

遠藤 かほる(2階看護科)

で自分独りの力ではありません。まわりの人の援助や支えがあればこそと思います。幸いなことに、これからもこの職場で働くことができる今、もっと質の高い介護を目指したい、自分も成長を続けていきたい。

人生の前途に向けて、リセットして再スタートさせようと思います。出来る事ならば広い心を持って、暖かい心を持って、患者様をはじめ、まわりの人の心の声に耳を傾けられますように。一日一日を大切に生きたいと思います。

田村 國之(1階看護科)

私はというと、慈生会の誓いに魅せられた10年でした。それが私の看護の原動力になっています。何も成しえていませんが、成長していかなければと思いを新たにしました。院長が日本一の療養病院にするとおっしゃっています。まだ課題は多いのですが、病院を訪れる方々の癒しの場となるよう祈りつつ、日本一になれる日を楽しみに働いて参りたいと思います。

千葉 博子(1階看護科)

で10年間勤務し支えてこられて表彰を受けた方々と違い、ベトレヘムの園病院に十分な貢献が出来ていないという思いもあり、ベトレヘムの園病院から参加させていただいたことには大変感謝しております。今後も微力ながらベトレヘムの園病院の力になれるように努力していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

濱口 憲一郎(リハビリテーション科)

ひふの話

その
29

市川 雅子(皮膚科医師)

蚊がうつす病気

蚊が人にうつす病気はたくさんあります。その中で、マラリア、デング熱、そしてジカ熱についてお話ししましょう。

マラリアは、熱発作を数日毎に繰り返す病気で、ハマダラカ属の蚊(夜間に活動)に刺されることによりマラリア原虫が赤血球に入り込むことにより発症します。古代より人類を悩ませてきた病気で、日本でも昔から「おこり」と呼ばれ、昭和初期までは全国で流行していました。今は日本で刺されて発症したという報告はありませんが、世界的にみるとまだ多い病気です。

デング熱は、ネッタイシマカやヒトスジシマカ(昼間に活動)がデングウイルスをうつすことにより発症します。一昨年の代々木公園での流行がニュースになりましたが、19世紀には中東やインド、台湾な

どで流行があり、第二次大戦中には国内でも流行しました。今も東南アジアを中心に流行が続いています。高熱と頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹などの症状が出ます。

ジカ熱は、デング熱と同じ種類の蚊にさされてジカウイルスがうつり発症します。発見されたのが戦後で新しい病気ですが、中南米やカリブ海地域を中心に流行しています。症状もデング熱と似ていますが、特に妊婦さんが感染すると赤ちゃんに影響があるので要注意です。

もうすぐ、リオオリンピックが始まります。ブラジルまで見に行こうと予定を立てている人も多いでしょう。海外での虫刺されは予想外の感染症を拾ってくる危険があります。刺されない服装、虫よけグッズ(蚊帳も有効!)を忘れずに持って行って下さい。皮膚に塗るタイプではディートという成分が入ったものを選んでください。ただし、生後6カ月未満の乳児にはディートは使えません。また、それ以上の子供の場合も必ず大人が指導して使うこと。そして、吸い込まない、目に入れない、舐めないように気をつけて下さい。刺されてから体調に異常を感じた時は、早めに医療機関を受診して下さい。

公開健康講座

「みんなに知って欲しい高齢者の看護・介護の基礎知識」

青木 信彦(院長)

高齢者の特徴

- 高齢者は完成された成人とは異なる
(VS 子供は大人を小さくした人間ではない)
- 老化という過程に疾病が加わる
- 多臓器障害が一般的なので
治療は部分と全身との至適なバランスで

高齢者ケアの3原則

- 継続性：これまで生活してきた生活と断絶せずに
継続性を持って暮らす
- 自己決定：高齢者自身の自己決定を尊重し周りは
周りはこれを支える
- 自己資源の活用：今ある能力に着目して
自立を支援する

高齢者治療の3原則（青木による）

- さわらぬ高齢者にたたりなし余計な治療を控える
- B S C Best Supportive Care
最善の補助的なケアに徹する
- 苦痛を取り除くことを最優先
長期生存より穏やかな今日の日

高齢期の3区分

- 65歳～75歳 できるだけ働こう
- 75歳～85歳 できるだけ自立した生活を送ろう
- 85歳～ 穏やかな晩年を過ごそう

使うと減るのが貯金 使わないと減るのが貯筋

- みなさん「スクワットです」
- ① 85歳⇒ イスから立ち上がる
 - ② 75歳⇒ しゃがんで、立つ
 - ③ 65歳⇒ 両足を揃えて、立つ
 - 「歩かないから」ではない
 - 原因は 起きられない・立ち上がれない
 - ポイント：起きる・自分の足で立つ・
自分の体重を自分で持ち上げる
 - ひとは手は貸してくれるが足は貸してくれない
 - 貯金は できても「貯筋」はできない
⇒ 持久力 より 「筋力」
1万歩 より スクワット

ベトレヘムの園病院

『3つの理念』と『3つの視点』

- 「慈しみのこころ」を根底として運営されるカトリックの療養型病院です
- 身体的・精神的に重い疾患のために不自由を余儀なくされる方々に、尊厳を失うことのない入院生活をしていただくことを目的にしています
- ここでは医療・介護の専門集団によるチーム力を発揮して、Cure（治す）ではなく Care（支える）を目標にこれからの健全な超高齢化社会に貢献してまいります

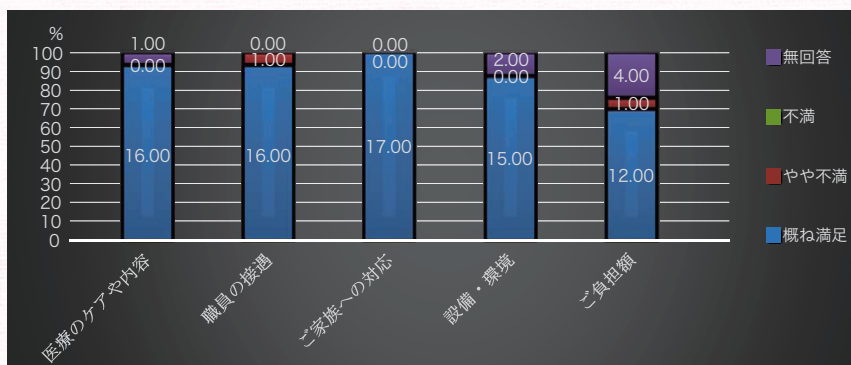
見守る・支える・看取る

時代の要請に応じて
ベトレヘムの園病院を日本一の療養型病院にします

入院患者ご家族との交流会

6月2日の土曜日、お天気にも恵まれ、恒例の『入院患者様のご家族との交流会』を開催しました。当日は22名のご家族の方が参加されました。病院からは、入院費請求上の変更点に加え、病棟・リハビリ・医療相談各責任者が、現在力を入れて取り組んでいることを説明させて頂きました。また今年から新しい取り組みとして、院長による健康講座は『高齢者の看護・介護の最新事情 ～看護・介護の基礎知識』をテーマに講演を行い、ご参加の皆様にご好評を頂きました。平日病院に来られないご家族の為に、医師との面談時間も設けました。2時間という短い時間ではありましたが、有意義な時間をご家族の皆様と共有することができました。

*入院生活についての満足度(有効回答件数17件)



*個別要望事項とその取り組み

(要望) 職員で挨拶をする・しない、名札の装着・未装着、といったバラツキが見られるので改善して欲しい。

取り組み: 各病棟のミーティングで科長より、挨拶の励行と名札装着の徹底を、全スタッフに指導、改善に取り組んでおります。

(要望) ご家族への病状説明をデールームではなく、プライバシーの保たれた空間で実施して欲しい。

取り組み: 静養室や談話室、空いている診察室などを活用し、個室での面談対応に改善します。

(広報委員会)

平成 27 年度の決算報告

資金収支計算書の要旨

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位:千円)

勘定区分	収入	支出	収支差額
事業活動収支	877,174	749,348	127,826
施設整備活動収支	418	33,348	△ 32,930
その他活動収支	0	25,601	△ 25,601
計	877,593	808,297	69,296

収支状況について

1. 入院、外来収益とも単価の伸びが著しく、8期連続の増収を達成した。
2. 支出は収入増に比して、ほぼ前年度並みに抑えられた。
3. 施設整備は病棟の空調を更新、コジェネレーションも導入し、省電力化を図った。
4. 最終利益は資金収支ベースではここ10年来で最高水準を記録した。

事業収支計算書の要旨

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位:千円)

収入の部			支出の部			収支差額
収益	介護保険事業収益	205,795	医業支出	人件費	590,096	
	医療事業収益	665,966		事業費	51,622	
	経常経費寄附金収益	941		事務費	89,320	
				その他費用 (減価償却費等)	50,877	
	計	872,701		計	781,915	90,786
	サービス活動外収入	4,473		サービス活動外支出	18,743	△ 14,270
	特別収入	200		特別支出	28,934	△ 28,734
	収入合計	877,374		支出合計	829,592	47,783

事務部長就任のご挨拶

菊池 誠(事務部長)

6月1日付で事務部長を拝命しました菊池と申します。青木院長のご指示のもと、より良い医療機関へ成長、発展していく為の環境を整えることが私の使命と考えます。この病院をご利用される患者さんご家族の方、職員の皆さんに支えて頂きながら、焦らず着実に実績を積み重ねていく所存です。どうぞ宜しくお願い致します。昨今、社会福祉法人立の病院を取り巻く環境は大変厳しいものになりつつあります。高齢者の中でも生活困窮者、とりわけ制度の狭間に取り残され、なかなか救いの手が差し伸べられない方々を一人でも多く、支援に繋げることが求められております。来る人を待っているだけの医療・福祉ではその問題を解決することはできません。私たちが日頃取り組んでいることを常に内外に発信し、職員の意識の醸成と、既存制度の枠にとらわれない新しい活動を提案し実践する。そのことこそが、私たちの存在意義だと考えます。

私事になりますが、私がこの病院に勤めるきっかけとなったのは、いくつかの「偶然」が重なったことにあります。最初の「偶然」は24年前、テレビで観たドキュメンタリー番組でした。皆さんは「ハンセン病」という病気をご存知でしょうか？後遺症の表れ方により誤解され、差別と不当な患者隔離が政策的に続いてきた

病気です。この病気のことを全く知らなかった私は、その番組の舞台となった瀬戸内の小さな島の療養所を訪れ、その折に東京の東村山市にこの病気の歴史を後世に伝える資料館が開館したことを聞きます。これが2つ目の「偶然」です。ほどなくこの資料館で資料整理のボランティアを始めてしばらく経ったのち、当時資料館とこの病院の要職を兼ねていた方を通じて入職したのが、ベトレヘムの園病院でした。3つ目の「偶然」です。こうした「偶然」の積み重ねにより今がある、そのことに見えないものの力を感じます。一つ一つの「偶然」と思われる「点」が「線」につながる時、「必然」になる、それを受け入れる気持ちこそが非力な人間の賢明さだと信じております。引き続き皆様のお力添えを賜りながら努力を重ねていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



お知らせ

- 健診は健康状態の確認と生活習慣を見直す機会です。年に1回の健診をぜひ有効に活用してください。
 - * 平成28年度特定健康診査等 健診期間：平成28年6月1日～12月29日
 - * 協会けんぽの「生活習慣病予防健診」も実施します。受診時に「協会けんぽ」の加入者(ご本人)であることが必要です。年度内お一人様1回に限り、協会けんぽから健診費用の一部が補助されます。健診期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日
 - * いずれも予約申し込みが必要です。問い合わせは医事課窓口まで(☎042-491-2525)
- 公開健康講座『健康食品シリーズ① 健康食品とは?』 講師：廣瀬課長代理(栄養科)・山口科長(薬剤科) 日時：平成28年7月21日(木)午後2時 場所：当院2階会議室

編集後記

先日、私が中学・高校時代を過ごした愛知県と、連れ合いの友人が住む浜松を訪れました。目的はそれぞれの大事な友人と一緒に会い、話をする。愛知では、同級生同士の友人夫妻と沖縄料理をつつきながら、浜松では、連れ合いの小学校の旧友と名物のうなぎを食しつつ、30年近くもの前の話に花を咲かせました。お互い年をとっているはずなのに、気持ちは完全に「あの頃」に戻ってしまうのは、

何故でしょう？不思議なのは、長く会っていないくても、あっという間に楽しい時間に戻れる人間関係がある一方で、毎日のように顔を合わせているのに、なかなかわかりあえない人間関係も存在するということ。違いはどこにあるのでしょうか・・・？その答えが見つかった時、私たちはきっと、もっと楽な気持ちで生きられるのかもしれませんが、皆さんにもそんな経験はありませんか？(M. K)